

令和3年度第4回矢巾町立学校通学区域審議会報告書

1 開会（午後6時30分）（田中館学校教育課長）

2 挨拶

○田村会長

今回の審議会では、事前に委員の皆様から頂いた意見書を拝見させていただきましたが、教育全体に関わっての「学区」の部分の視点について協議をしていければと思いますので、よろしくお願いします。

3 議題（進行 田村会長）

(1) 望ましい学校規模(学級数・学級人数)

(2) 望ましい通学距離と通学時間

(3) 適正化を進める上で考慮すべきこと

高橋学校教育課長補佐が、事前に各委員から提出いただいた意見書を抜粋して紹介した。

(1) について、多様化及びクラス替えがあった方が良いという意見が多数。1学年2学級以上という傾向。人数は国基準で40人、県では35人を推進しており、本町でも県に合わせ、35人編成をしているが、意見も同様に適正の範疇となっている。

(2) について、国基準や遠距離通学補助金、スクールバスの基準を基にご意見をいただいた。また、体力向上の部分も考慮する必要があるという意見もあった。

(3) について、学校は地域の活性化や地域防災拠点としての役割もあるため、学校規模の適正化によって学校を統廃合することは慎重な検討が必要という意見。また、小中一貫校の設置を検討してはという意見。学校運営協議会の活用もしていく必要があるという意見。何よりも子ども達の安全配慮は、保護者及び地域の理解と協力が不可欠という意見。と様々な観点から意見をいただいた。

○田村会長

(1) と (2) の学校規模や通学距離及び通学距離というのは、望ましい適正規模に含まれてくる。(3) が大きな柱として協議していくべきこと。委員の皆さんからご意見を頂戴し、意見や事務局に質問等をしながら進めていければと考えている。

○H委員

現実的に考えていく時に、必ず金銭面が課題となってくる。新しい住宅も増えていくという事も踏まえて必要なものを検討してきたと思うが、通学の際に必ず長距離通学になる子どもが出てくるので、移動弱者が出てくる。そこで時間帯を変えたマイクロバスを町で運行し、ある時間帯はスクールバスに、ある時間帯は高齢者等のバスになることで、多面的な仕組みを作っていくことが有意義に感じる。費用対効果も期待できると

思う。

内閣府で示す日本の人口推移は50年後には半分になる。岩手県では、盛岡市と同じ人口になると言われている。人口減少も見据えて考えると、大きなインフラ整備よりも、そこに通う「足」を考える方が編制しやすいと考える。

○N 委員

フューチャーデザインの話もあったが、学校の特徴を生かしてという視点で話をしたいと思う。大規模校と小規模校それぞれに、小規模校だから出来ること、大規模校だから出来ることを念頭に今後検討していく必要があると思う。小規模校だとかこういった授業が充実していて、そのためにこのくらいのクラス規模が必要だというデザインが必要なのかと考える。

GIGA 構想も取り入れつつ、学校側が特徴を発信して子どもが集まる、保護者が学校に入りたいという状況を作っていくことが大切。学区というところも通学距離等があって区割りを定める必要性は感じるが、それが全てではない時代だと思う。それぞれ学校の特徴を十分に生かせるように今の時代にあったデザインが必要。

○C 委員

中目委員が行ったように、学校規模の大小で学習の差が生まれるのかどうかは、実際分からない。規模だけの違いで差が出るのか。

大規模校と小規模校のデメリットの最小化についても先進的な所では事例があるのではと思う。特色のある学校づくりを念頭に考えていくことに賛成。自分の生まれ育った地域の学校に入学すると思っている節はあるが、何か新しい取組が出来ないかと考えていくことは大事な視点と考える。

○J 委員

学校毎に特徴はありつつも、矢巾町全体としての大きな教育目標のもとに小中学校6校があることから大体同じ方向には向いているとは思う。規模によって先生方の人数とか、一人当たりの支援の手厚さが若干違うかもしれない。だから望ましい通学距離と通学時間、学校規模に近づけることが大きな目標になると思う。不動小学校の10年後20年後を考えたときに、やはり人数的にも1学年1学級となるし、それを小規模の良さがあると考えなのか、適正規模から考えれば統合することが妥当なのかと考えなければならない。方向性が重要と考える。

○田村会長

どちらを選ぶというわけではなくて、両方見ながらやっていく必要があると感じる。

○G 委員

一番心配なのは、不動小学校が現在でも1学年1学級ということ。低学年にあるほど人数が少なくなっている。ここ数年で10名台になると思われるので、児童数を増やす方

法を考えるべき。地域の学区見直しを。徳田小学校については新興住宅が入ってくるので問題ないと思う。接続地区を不動小学校学区に入れるような考えはないか。

○I 委員

不動小学区に人数を増やす考えに賛成。小規模・大規模校の良さや課題はあるが、実際子ども達に平等かと言われるとそこは難しい。やはり、委員の意見も見ると複数学級がいいという意見が多い。多様性や学びの多さを考えると適正かなと考える。お金の話は別としても、学校の規模はある程度平均化していく中で、良さを出していくべき。少しの差であれば ICT も進んでいるところなので、埋められると感じる。そこに追従して通学距離だとか通学時間を合わせていく形が良いと思う。

○K 委員

不動小学校は人数が少ないというのが課題。不動小学区に何か特徴のある学区を設けて、不動小に就学させたいという家庭をバスで拾って通わせるというのもあると思う。何度も話題にしているが、ゆうゆう広場を住宅地にする案はいかがか。

○田中館学校教育課長

都市計画的な所はこちらで回答することは出来ないが、都市計画のところでは担当課から情報を得て、何か資料としてお示しできればと思う。

○P 委員

「矢巾町ならではの学校づくり」というところで当初話があったと思う。都市計画の事が現状分からないとの回答だったが、矢巾町が何を見据えて都市計画をしていくのかある程度掴んで、人口を調整しながら学区編制を話し合った方が良いと考える。不動小学校が過疎化の状況であるのであれば、そこに新しい住宅地を作ってもらえるよう行動に移すような計画も意図的に出来るものではないかと考える。

望ましい適正規模等に関しては、委員方の意見のとおりと考えるが、子ども達は大人が想像する以上に多様性を持っているが、大人が想像する以上に経験が少ないと感じる。

不登校や引きこもりの子たちは小さい頃からの体験が特に少ない。小学校が少し遠かったりすると、朝起きて学校に行くまでに耐えられず、ハードルが高いものになってしまう。中学校に行くと小学校の学区ではない人と交わる機会も増えて、担任も教科担任制になり、人との交流も増える。

違った角度での話にはなるが、学校という器があってもそこに通う子ども達がどういう成長をして発達してきているのかを見ながら、それに耐えられるような器を用意してあげる必要がある。

○田村会長

国で示しているものではあるが、これからの日本の教育では個別最適化、ICT もそうだが、大規模だろうが小規模だろうが学べる環境は ICT でクリアしていく。体験不足という

のも否めない。協働的な学びというところでも課題が見える。

○D 委員

小規模だからと言って、手厚く支援が受けられるわけでもないし、大規模だからといって目が行き届かないというわけではない。

通学の安全性を考えたときに、やはりある程度の距離を歩くというのは大切なことだと思うが、実際不審者や交通事故も全国的には増えている。小学 1 年生が 1 人で歩いているのは違和感がある。

○A 委員

不登校の話があったが、そこについては規模云々というのは関係がないと思う。個別の要素が非常に高い。

小中高と就学すると大抵はクラス規模が大きくなると思う。多様性というところで子ども達の力が試されるとは思うが、今までの議論のとおり 2・3 クラスと言うのが一番良いと考える。現在、徳田小学校と不動小学校で 1 クラスという事だが、一気に増やすというよりは、少しずつ増になるようにしていく必要がある。

建物の耐用年数はどのくらいなのか。徳田小学校は 53 年程経っていると記憶しているが。

○田中館学校教育課長

徳田小学校が一番古い昭和 45 年に建てられた。現在メンテナンスをしながら維持している。すぐに使用できなくなる状態ではない。ただ、今後 6 校を維持補修しながら使っていけるのかという問題がある。H 委員の人口減少を踏まえながら検討しなければいけないという意見だったが、第 1 回通学区域審議会の時にも説明した通り、長い目で見たときに人口減少は避けられないもので、果たして本町の財政がどれだけ持つのかということも関係してくるので、今すぐにどのくらい維持補修が持つのか具体的な数値は回答できないが、人口減少も見据えたところでどのような学区編成がよいのか意見をいただいている。

施設に関して、このまま使い続けるとした時に維持費が必要かというのを事務局で試算したことがあったが、前々回の資料に載せていたかと思う。次回以降の審議会においても財政の部分を含めて議論していただきたい。

○K 委員

修繕費と小中一貫校新設の経費について比べることは可能か。

○田中館学校教育課長

現在、試算したものはないが、他県で小中一貫校を始めるにあたって新設した校舎を視察したことがある。児童生徒数の規模にもよるが、図書室 1 つ、プールも 1 つ、グラウンドも 1 つで済むというところだが、体育館は授業の関係で 2 つ必要とのこと。全体としてみれば、省略できるところはある。本町では矢巾中学校が新設されたところなの

ですぐに小中一貫校を建てることは難しいが、小中一貫型という形もある。

○L 委員

スクールバスの運営の継続によって、安全の確保が出来る。通学の自由化も人によって必要になってくると感じている。安全性も確保できるかというと、色んな事故が増えている。通学路にガードレールを設置するよう要求するが、予算のところで引っかかってしまい、色んな意見を出しているが、現実化していくのはいつなのかと考えると、通学の自由化が必要と考えました。校長も精神を鍛えたいという保護者もそこにも多様な考えがあると思う。スクールバスは今後も必要と思うし、今後は通学の自由化が必要だと考える。

P 委員から話があった、不登校の子どもは今後ますます増加すると思う。コミュニティ・スクールでも自己肯定感が低い子どもが多いと聞いて、多様性を認め合える子ども達が増えて欲しいと思った。

未来の人口動態と矢巾町の産業と人口の在り方ということで、特色のある学校づくりを目指すにあたって人材育成を小学校の特色に合わせて行えればと考える。

○F 委員

子どもが学校を選ぶのではなくて、親が学校を選んでそこに住宅を建てることを考えると、不動小学区は交通手段に不便な点がある。児童数を増やすのも、小中一貫校を建てることも難しいと思うが、不動小学校の特色を生かしつつ、町内で不動小学校に通いたいと思う家庭があるならば、そこにスクールバスなどの支援できればと思う。

○M 委員

小規模校で良い面もあれば、逆に人間関係でこじれると卒業までがつらいという話を聞いた。ある程度人数のいる複数学級の編制が適正と考える。学校の特色も、規模の適正も考えると、矢巾町だから出来る教育デザインが必要になってくる。

○田村会長

1 つは人口減少、児童生徒の数も減る、財源が限られている、施設も老朽化している現状をしっかりと捉えていく必要があり、その中でどういう適正規模がどうあればよいかという事で、あくまで児童生徒の教育条件の改善をするための議論だと思っている。学校教育には目標があり、目的があるので、見失わないように協議していく必要がある。

2 つめは、地域コミュニティの核としての学校として考えていく必要がある。地域コミュニティの核としての機能を学校はどう担っていくのか、地域と一緒に考えていく必要がある。

3 つめは、地理的要件や地域の状況及び事情を考えつつ、小規模・大規模の良さを生かすというあたりも考えていかなければいけない。

4 つめは、学級数、児童生徒数等のサイズ感の絶対値は必要になってくる。適正化を進

める上では必要な条件になってくる。

最後に、町づくりとの連動・連携が、矢巾町の魅力や特色にもつながってくるため、連携して考えていく必要がある。

本日はたくさんのご意見をいただきました。協議の方は以上を持って終了いたしますので、事務局にお返しします。

4 その他

事務局からの連絡事項

○田中館学校教育課長

来年度、役職の改選になる方もいらっしゃると思うので、審議会の論点や考慮すべきことに関して引継ぎをお願いいたします。

本日は、年度末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございました。

5 閉会（午後 7 時 50 分）（田中館学校教育課長）